

これからの 音楽教育

名古屋音楽大学

お話:高橋肇学長、清水皇樹ピアノコース准教授

音楽を総合的に学べる環境

名古屋音楽大学の一番の魅力は、専攻・コースの壁を超えて自由に授業を履修できることです。主攻の他に、副専攻と副科実技を履修できる『メジャー・マイナー制』を導入しているので、クラシックだけでなくジャズやポピュラー、邦楽まで、あらゆるジャンルの学生が相互に交流する機会があ

interview



高橋肇学長

清水皇樹
ピアノコース准教授

文◎編集部 野崎裕美

り、自ずとアンサンブルする力も養われていきます。

近年、学生みずからが参画、行動する『アクティブラーニング』が注目されるようになりましたが、名古屋音楽大学では以前から長い間実践してきたことです。本校の学生たちは外部で演奏会を開催することも多く、現場で採まれることで実践的な能力を身につけています。大学が依頼されている演奏会だけでなく、年間70以上あり、『めいおん音楽祭』期間

中は28公演開催しているので、かなりの数をこなしていることになりました。おかげで学生たちは企画のプレゼンテーションも演奏会のMCも難なくやっています。大学の授業で音響、照明、メイクを学べるので、裏方に必要な一通りの知識を得ることができそうですし、1年次に全員が楽譜ソフトの授業を履修するので、コード法や編曲アレンジの基本的な知識を身につけてアンサンブルのために自分たちで編曲しています。待っていても誰も動いてくれません。名古屋音楽大学では、学生たちが主体的に動くための環境が整っています。

ピアノ演奏家コース新設

2015年度から『ピアノ演奏家コース』を新設します。レッスン時間は通常ピアノコースの約2倍。ダブルレッスン制という形をとり、通常レッスンに加えて学生が希望する教員、もしくは特別レッスン担当教授によるレッスンを月に1〜2回受講することができます。特別レッスン担当教授には、ロン・テイボー国際コンクールで優勝された田村響さんと野原みどりさんを始めとする、学生が夢や希望を感じられる素晴らしいメンバーでお迎えします。演奏テクニクだけではなく、実際に国際的な演奏活動をされている方から学ぶことは多いと思います。練習室とステージとはまったく違う響きになるため、ステージで弾く場合にはどれくらい音量が必要になるのか。また、本番前の精神的なケアについてなど、特別レッスン担当教授による実体験を通したお話というのは、学生にとって貴重な学びになります。